

講演内容		講師(職位)
講座番号 1	インプラント補綴のアドバイス	舞田健夫 (教授)
<p>インプラント治療により患者はブリッジや可撤式補綴装置による補綴治療に勝る機能と満足度が得られます。それは我々臨床家にとっても喜びでもあります。しかしながら、術後の経過観察において上部構造の破損、インプラントの脱離などによってその機能、満足度にマイナス因子が生じることも少なくありません。この講演では術後のトラブルを回避するためのいくつかのポイントについて解説したいと思います。</p>		
講座番号 2	サージカルガイドシステムによる口腔インプラント治療	越智守生 (教授)
<p>近年、口腔インプラント治療では手術の安全性と正確性を求めてサージカルガイドシステムを使用したインプラント埋入が増加してきています。本学ではCAD/CAM法のProceraシステムを臨床で使用しています。ProceraはサージカルガイドのNobel Guideやインプラント用アバットメント、その他ブリッジ、オールセラミックスクラウンを一つのシステムで製作可能です。本講演ではProceraの臨床について講演いたします。</p>		
講座番号 3	歯周病ケアが大切なわけ	古市保志 (教授)
<p>歯周病は、口腔の2大疾患の1つであり成人における歯の喪失の最大の原因です。これまで歯周病を予防・治療することは、歯の喪失を防ぎそれに伴う口腔機能の保全を目的としてきました。ところが近年、歯周組織の健康が全身の他の部位の疾患や状態と密接に関係している可能性が多くの研究結果として報告されています。この講演では、歯周病と全身の健康状態との関連性、および歯周治療を行うことによる影響について、特に糖尿病と早産・低体重児出産に焦点を絞って解説を加えたいと思います。</p>		
講座番号 4	骨再生のためのバイオマテリアルと歯の移植・再植法	村田 勝 (教授)
<p>骨誘導再生には母骨のマネージメントとバイオマテリアルの知識が必要不可欠です。30年間の硬組織研究に基づいたスマートな骨外科処理で加速した骨増生が可能です。</p> <p>移植材は日本製が優れており、ベストマテリアルと自家象牙質を解説します。</p> <p>歯の移植・再植は天然歯を大切に利用する素晴らしい特殊技術です。これらの知識と技術を学び、低侵襲医療を患者さんに届けましょう。</p> <p>講演ではクリニックで可能な先進的治療法を手術動画で紹介します。</p>		
講座番号 5	ミニマルインターベンションに立脚した審美歯科治療	斎藤隆史 (教授)
<p>ミニマルインターベンションの普及とともに接着・審美修復法が飛躍的な進展を遂げています。特にダイレクトボンディングやホワイトニングは、歯質の保存を第一義に、美しい外観を回復する方法として有効な治療法です。この講演では、日常臨床に役立つダイレクトボンディング・ホワイトニングのテクニックについて解説したいと思います。さらに、これらの治療の効果を維持させるためのメンテナンスや、歯質・歯列を健全なまま維持するための予防処置の重要性についても触れたいと思います。</p>		

講座番号6	口腔症状がみられる心身症と精神疾患・その対応法	安彦善裕（教授）
<p>明らかな客観所見がないにも関わらず口腔症状を訴える患者には、背景に心身症や精神疾患の潜んでいることがあります。現代のストレス社会の中、このような患者が増加傾向にあり、歯科医師は心身症や精神疾患に関する知識を備え、患者に対応することが望まれています。本講演では、心身症と精神疾患のエッセンスと、これらの患者への歯科外来での対応法について解説致します。</p>		
講座番号7	古くて新しい義歯の話	越野 寿（教授）
<p>歯科治療、なかでも義歯補綴治療は典型的な歯科臨床であり、古くから歯科治療技術の中心的存在です。しかし、DOSからPOSへの治療に対する考え方の変化とともに、その治療方法にも多少の変化が生じています。すなわち、患者中心の医療の中で、SOAPに基づく問題志向型診療録（POMR）の採用や、治療目標の決定と治療効果に対する義歯補綴治療でのDecision making が重視されていることです。私たちが日常臨床でおこなっている義歯補綴治療についてお話いたします。</p>		
講座番号8	一般臨床医も安心してできる口腔外科手術の実際	永易裕樹（教授）
<p>日々の歯科診療において、抜歯は特に高頻度手術といえます。あまりにもその症例に日常多く接するため、手術に対する基本的手技を忘れ、思いもよらない偶発症を惹起することもあります。また、高齢化人口の増加に伴い、有病率も増し外科手術も制限される機会も多々あります。有病者の手術を安全に行うための注意点と、いつの間にか自己流に陥っている可能性がある基本手術手技を再検討できる機会となるよう解説いたします。</p>		
講座番号9	必ず役に立つパノラマX線診断	中山英二（教授）
<p>デジタルパノラマX線撮影が普及し写真処理の失敗による画質の劣化から解放され、良質なデジタル画質による読影が可能となったので、逆に画像上に検出された所見を正しく読影することが重要になってきました。そこでパノラマX線撮影の原理と読影の実際について実例を上げて解説し、日々の歯科診療にすぐに役立つお話をします。読影についての内容は以下の通りです。1) 顎骨の病変、2) 顎関節部病変、3) 上顎部診断の注意点、4) インプラント診療への利用と限界。</p>		
講座番号10	口腔がんを見逃さないために	千葉逸朗（教授）
<p>歯科は日常の臨床の中で口腔がん遭遇の可能性が非常に高く、従って、口腔がんおよび前がん病変を見極めることが大変重要です。一度見て、頭に焼き付けておけば見逃すことはなくなります。開業医の先生は口腔がんの治療をする必要はありません。でも他の疾患との鑑別はできなくてははいけません。口腔粘膜の様々な病変を見て頂き、「おやっ」と思える目を養って頂きたいと思えます。</p>		

講座番号 1 1	CAD/CAM 臨床のポイント	疋田一洋 (教授)
<p>2014 年の CAD/CAM 冠の小臼歯部への保険適用以来、非貴金属材料の保険適用が続いています。これらの新しい材料を臨床現場で使用するためには、材料に対する知識やどのような症例が適用であるかについて正しく認識する必要があります。そこで、CAD/CAM 用材料 (ハイブリッドレジンブロック、ジルコニア、セメント)、ファイバーコア、ファイバーブリッジに関する臨床応用に役に立つ最新情報について解説いたします。</p>		
講座番号 1 2	「あやしいな」と気付く目を持つために ー口腔がんを発見するための診察・診断方法ー	奥村一彦 (教授)
<p>口腔がんの臨床的特徴は、目視による潰瘍の存在と触診による硬結です。患者さんが、自ら確認が容易な部位であるにも関わらず、発見が遅れるケースが少なくありません。そこで、これからの戦略としては、二つの柱が重要となります。一つは、一般市民に向けての口腔がん予防推進活動であり、二つ目は、我々歯科医師が、日常の臨床で口腔がんを見逃さないための診断能力の向上です。日常の診療で「あやしいな」と気付く目を持つことで、一人でも多くの患者さんを救うことができます。</p> <p>講演では、口腔がんの疫学、診察・診断方法、治療法の概要について、分かり易く説明させて頂く予定です。</p>		
講座番号 1 3	診療ガイドラインを補綴臨床に活かす	會田英紀 (教授)
<p>科学的根拠に基づく歯科医療 (Evidence Based Dentistry) の実践・普及のために歯科関連の各専門学会がさまざまな診療ガイドラインを作成していますが、それらは臨床現場で十分に活用されているとは言えません。そこで、本講演ではガイドラインの作成に永年関わってきた立場から、補綴関連診療ガイドラインを網羅的に紹介すると共に日々の臨床にどのように活かすべきかを説明させていただきます。また、要望に応じてインプラントのオッセオインテグレーション能を飛躍的に高める新技術についてもご紹介いたします。</p>		

舞田健夫教授 専門：インプラント補綴学 86年 本学歯学部卒業 89年 北海道大学助手 92年 本学医療科学センター助手 98年 同 講師 99年 同 助教授 05年 本学個別差医療科学センター教授 12年 本学教授	越智守生教授 専門：インプラント補綴学 84年 本学歯学部卒業 93年 同大学院歯学研究科修了 本学歯学部講師 02年 同 教授
古市保志教授 専門：歯周病学 85年 鹿児島大学歯学部卒業 88年 イエテボリ大学歯学部留学 98年 鹿児島大学歯学部助手 02年 同 助教授 04年 本学教授 09年 本学歯科内科クリニック院長 14年 本学歯科クリニック院長	村田 勝教授 専門：骨再生外科学 88年 北海道大学歯学部卒業 93年 北海道大学大学院歯学研究科修了 93年 岡山大学歯学部口腔病理学助手 95年 パスツール大学医学生物学留学 97年 本学助手, 講師 95年 日本口腔インプラント学会優秀論文賞 受賞 07年 本学准教授 09年 日本顎顔面インプラント学会 指導医 17年 本学口腔再生医学分野 教授
斎藤隆史教授 専門：保存修復学 90年 本学歯学部卒業 94年 同大学院歯学研究科修了 94年 同歯学部助手 95年 ノースカロライナ大学博士研究員 01年 本学講師 03年 同 教授	安彦善裕教授 専門：口腔内科学、病理学 86年 東北歯科大学卒業 東京歯科大学大学院歯学研究科 90年 ブリティッシュコロンビア大学留学 92年 本学講師 99年 同 助教授 05年 本学個別差医療科学センター教授 05年 ロンドン大学イーストマン歯科研究所 客員教員 11年 本学教授
越野 寿教授 専門：有床義歯補綴学 85年 本学歯学部卒業 85年 本学助手 93年 同 講師 96年 UCLA客員研究員 03年 本学助教授 07年 地域支援医療科長 10年 本学教授	永易裕樹教授 専門：口腔外科学 90年 本学歯学部卒業 94年 同大学院歯学研究科修了 本学助手 98年 千葉県がんセンター頭頸科研究員 00年 本学講師 03年 同 助教授 10年 本学個別差医療科学センター 教授 11年 本学教授
中山英二教授 専門：歯科放射線学 84年 九州大学歯学部卒業 01年 九州大学歯学部付属病院講師 05年 ハーバード大学訪問研究員 05年 同大学歯学研究院助教授 07年 本学教授	千葉逸朗教授 専門：口腔衛生学 83年 北海道大学歯学部卒業 87年 同大学院修了 88年 米国国立衛生研究所勤務 93年 北海道大学助手 99年 日本口腔外科学会認定医 02年 本学教授

<p>疋田一洋教授 専門：デジタル歯科医学</p>	<p>奥村一彦教授 専門：口腔外科学</p>
<p>87年 北海道大学歯学部卒業 91年 北海道大学大学院歯学研究科修了 91年 北海道大学歯学部助手 99年 本学講師 02年 ルーベンカソリック大学客員教授 04年 本学准教授 15年 同 教授</p>	<p>83年 城西歯科大学（現明海大学）歯学部卒業 87年 城西歯科大学 大学院歯学研究科修了 （歯学博士） 87年 東日本学園大学（現北海道医療大学） 歯学部 助手 90年 札幌医科大学医学部 在外研究員 93年 東日本学園大学 講師 96年 千葉県がんセンター頭頸科研修医 99年 日本口腔外科学会専門医 03年 本学講師 日本口腔外科学会指導医 05年 インфекションコントロールドクター(ICD) 12年 日本小児口腔外科学会指導医 15年 本学准教授 17年 同 教授</p>
<p>會田英紀教授 専門：補綴学、再生医学</p>	
<p>93年 北海道大学歯学部卒業 97年 同大学院修了、同大学助手 03年 米国UCLA客員研究員 07年 本学講師 07年 米国UCLA客員研究員 08年 本学講師 11年 同 准教授 16年 同 教授</p>	